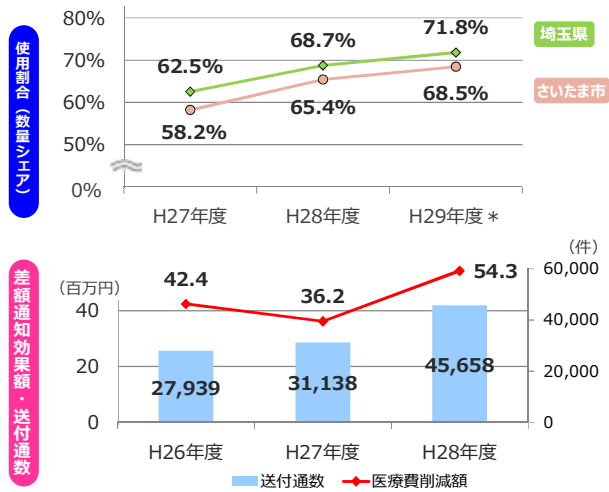


## 5-1. ジェネリック医薬品差額通知事業の実績

資料：レセプトデータより

### ジェネリック医薬品差額通知事業の実績



➤ **さいたま市の数量シェアは年々増加傾向にあるが、埼玉県と比べて低い。**

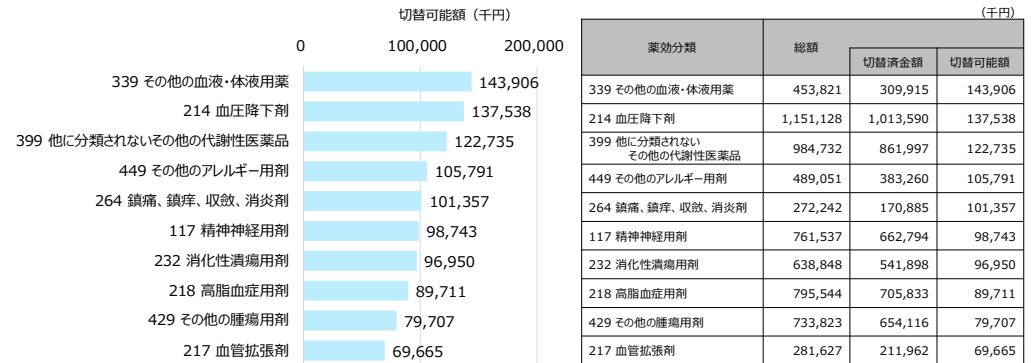
➤ **ジェネリック医薬品差額通知効果額は、平成28年度に送付通数を増やした結果、増加している。**

\*：平成29年度は平成29年10月診療分のデータ

## 5-3. ジェネリック医薬品への切替可能額

資料：レセプトデータ（平成28年度）より

### 薬効分類別ジェネリック医薬品への切替可能額の状況



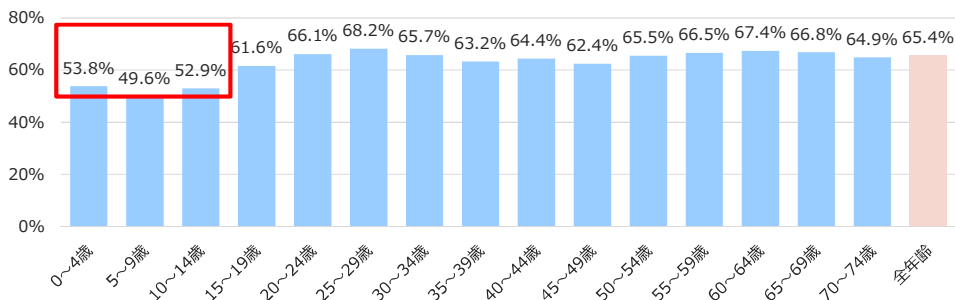
➤ **切替可能額が最も高いのはその他の血液・体液用薬、次に血圧降下剤、他に分類されないその他の代謝性医薬品と続く。**

\*：先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えることによって軽減できる金額（薬剤費総額）

## 5-2. ジェネリック医薬品数量シェア《年代別》

資料：レセプトデータ（平成28年度）より

### ジェネリック医薬品数量シェア\*《年代別》



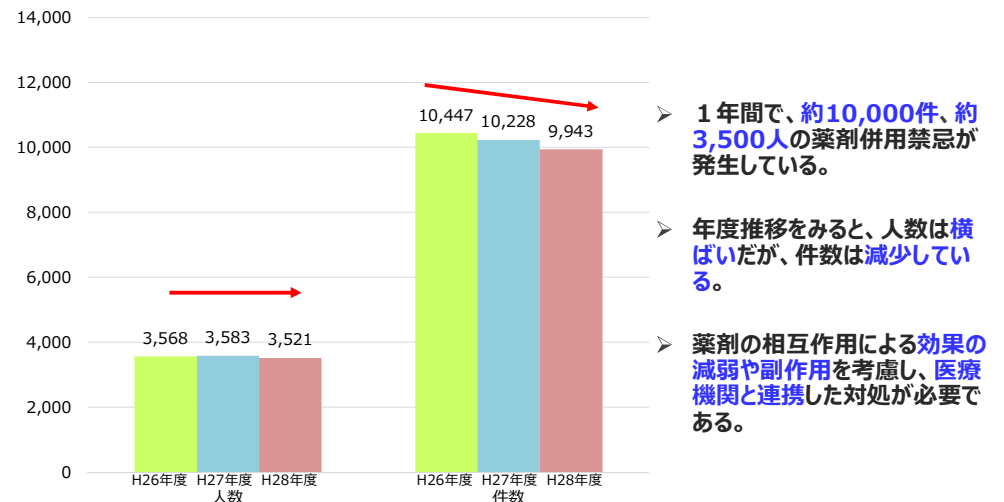
- **年代別のジェネリック医薬品数量シェアは0歳～14歳で低い傾向にある。**
- **子育て支援医療費助成制度（中学校卒業まで（0歳～14歳）は医療費が無料）による影響が推測される。**

\*：ジェネリック医薬品数量シェア = ジェネリック医薬品の数量 ÷ (ジェネリック医薬品のある先発医薬品の数量 + ジェネリック医薬品の数量) × 100 (小数第2位を四捨五入)

## 5-4. 薬剤併用禁忌の発生状況

資料：レセプトデータより

### 薬剤併用禁忌\*の発生状況



➤ **1年間で、約10,000件、約3,500人の薬剤併用禁忌が発生している。**

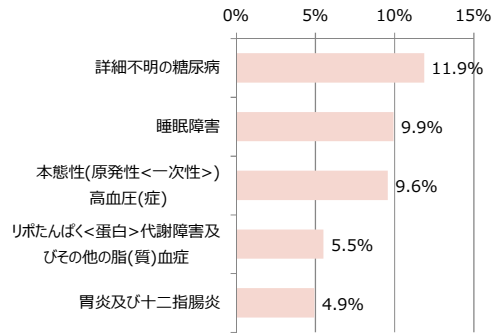
➤ **年度推移をみると、人数は横ばいだが、件数は減少している。**

➤ **薬剤の相互作用による効果の減弱や副作用を考慮し、医療機関と連携した対処が必要である。**

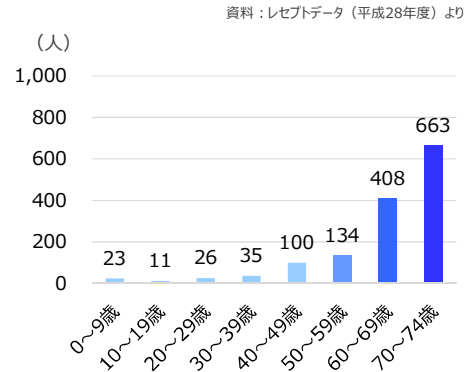
\*：相互作用のある医薬品の組み合わせで、特に重篤な有害事象がある組み合わせ

## 5-5. 重複受診の現状

### 重複受診\*の疾病割合



### 重複受診の年齢階級別人数

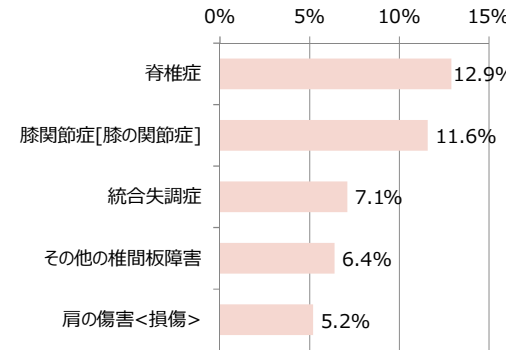


- 重複受診疾患は、**本態性(原発性<一次性>)高血圧症**が上位に入っている。
- 重複受診人数は年齢が上がるにつれ**増加**している。

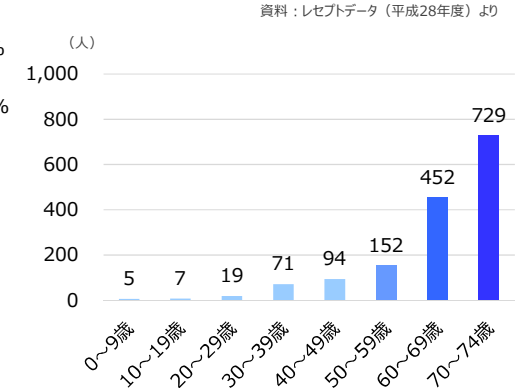
\*：1か月のうち、3件以上の複数医療機関から同疾病コード（ICD10コード3桁の一致）の通院レセプトが2ヶ月以上発生している状態（人工透析患者は除く）

## 5-7. 頻回受診の現状

### 頻回受診\*の疾病割合



### 頻回受診の年齢階級別人数



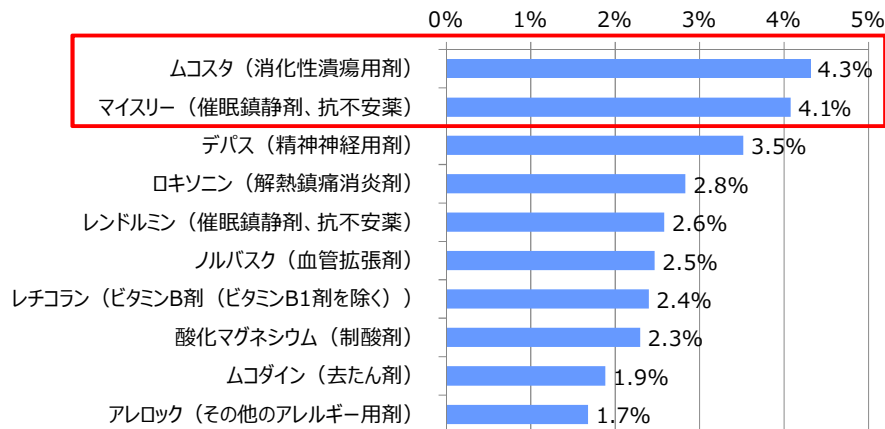
- 頻回受診疾患のうち、最も多いのは**脊椎症**、次に**膝関節症(膝の関節症)**、**統合失調症**と続く。
- 頻回受診人数は年齢が上がるにつれ**増加**している。

\*：1か月のうち、同疾病コード（ICD10コード3桁の一致）の通院レセプトが10回以上発生することが2か月以上継続している（人工透析患者は除く）

## 5-6. 重複投与の現状

### 重複服薬の上位10医薬品名

資料：レセプトデータ(平成28年度)より

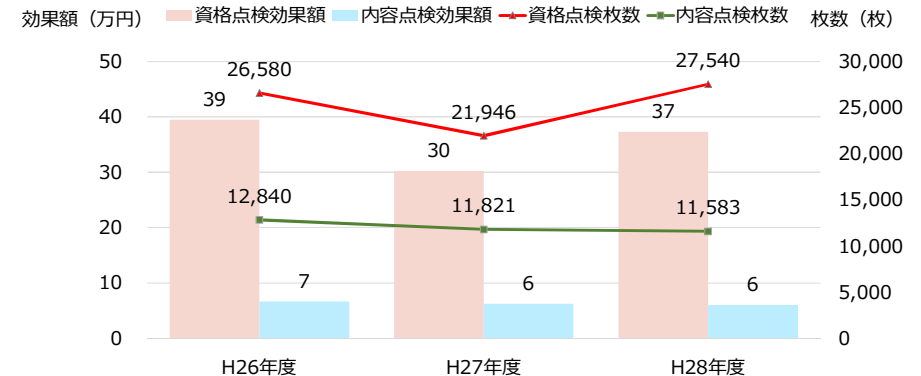


- 重複服薬のうち、割合が最も多いのは**ムコスタ(消化性潰瘍用剤)**、次に**マイスリー(催眠鎮静剤、抗不安薬)**と続く。

## 5-8. レセプト点検効果額について

### レセプト点検効果額の状況

資料：埼玉県 国民健康保険レセプト点検調査結果より



- 資格点検効果額、枚数については、平成27年度は**減少**したものの、平成28年度に**増加**している。
- レセプトの電子化に伴う医療機関の請求誤りの減少、国保連合会一次審査の強化等の影響もあり、内容点検については効果額、枚数ともにやや**減少**傾向にある。